

平成28年11月28日

氷見市長
本川 祐治郎 様

中村地区自治会
区長 南 守
中村営農受託組合
組合長 西田 利紀夫



要 望 書

H28-083-001

日頃より、中村地区の農業振興に多大なるご指導とご協力を賜わり心より感謝とお礼を申し上げます。

中村地区では、平成24年に地区の有志で営農組合を立ち上げました。設立当時は100反の作付け面積でしたが、今年度は倍以上増え230反の作付けになっており、高齢化により今後益々作付面積が増えていく見込みで荒廃地も大幅に減少しており、営農組合が存在する限り中村地区の農業・農地維持は大丈夫のように見えます。

しかしながら、中村地区の農地は昭和50年代に土地総事業を行いました。用排水路等の農業用施設は老朽化し、維持管理に多大な経費をつぎ込んでいる状況であります。

それに加え、一反区画の小さな田んぼで作業効率が大変悪い状況に追い打ちをかけるように415号バイパス整備で一反に満たない小さな田んぼがたくさんでき、生産効率が更に悪化し地域農業維持や経営面においても大変苦戦し今後について悩んでいました。

6月に土地改良区主催の研修会で農業競争力強化整備事業（ほ場整備事業）の話聞いたので、地区に帰り委員会や地区の有志に相談説明した後、営農組合の会合で相談説明し出席者全員から賛同をいただきましたので、中村地区での農業競争力整備事業（ほ場整備事業）を実施致したいので優先して計画に取り上げていただきたく強く要望致します。



中村地区
要望範囲図

